研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-52C		21-090	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Alcohol Consumption, HDL-Cholesterol and Incidence of Colon and Rectal Cancer: A Prospective Cohort Study Including 250,010 Participants
飲酒および HDL コレステロールと大腸がん、直腸がん発症との関連

執筆者

Tverdal A, Høiseth G, Magnus P, Næss Ø, Selmer R, Knudsen GP, Mørland J.

掲載誌

Alcohol Alcohol. 2021 Oct 29;56(6):718-725. doi: 10.1093/alcalc/agab007.

キーワード	PMID
飲酒、HDL コレステロール、大腸がん、直腸がん、前向きコホート研究	33604595

要　旨

目的：これまでの疫学研究で飲酒が大腸および直腸がんの危険因子であることが示されているが、その用量との関係は一致していない。一方、HDL コレステロール(HDL-C)は飲酒量との用量反応関係、また、大腸がん・直腸がんのリスク低下が報告されている。そこで、飲酒および HDL-C と大腸がん・直腸がん発症との関連を明らかにする。

方法：ノルウエー人 20-79 歳, 250,010 人を対象とし、ベースライン時の飲酒量および HDL-C と大腸がん・直腸がん初発リスクの関連を検討した。Cox 比例ハザードモデルを用いて、ハザード比(HR)および 95%信頼区間(CI)を算出した。

結果：平均追跡期間 18 年間に大腸がん 3,023 人、直腸がん 1,439 人の発症を確認した。男性は、アルコール摂取 12.5g/日あたり HR 比は大腸がん 1.05(95%CI;0.98-1.12)、直腸がん 1.05(95%CI;1.02-1.15)、女性は大腸がん 1.03(95%CI;0.97-1.10)、直腸がん 1.05(1.00-1.10)であった。アルコール摂取量と HDL-C に正相関を認め、男性では、HDL-C は大腸がんのリスク低下(HDL-C1mmol あたりの HR 0.74, 95%CI;0.62-0.89)を認めたが、直腸がんについては統計的に有意ではないもののリスク上昇(HDL-C1mmol あたりの HR 1.15, 95%CI;0.92-1.44)を示した。ロバスト回帰分析にてはずれ値を除外した結果、大腸がんのアルコール摂取 12.5g/日あたりの HR 値は上昇し、HDL-C1mmol あたりの HR 値は低下した。直腸がんリスクは変化を認めなかった。

結論：飲酒は大腸がんと直腸がんのリスクと正の関連を認めた。アルコール摂取量と HDL-C に正相関を認めることを考慮すると、男性における HDL-C と大腸がんの負の関連は結論づけられない。